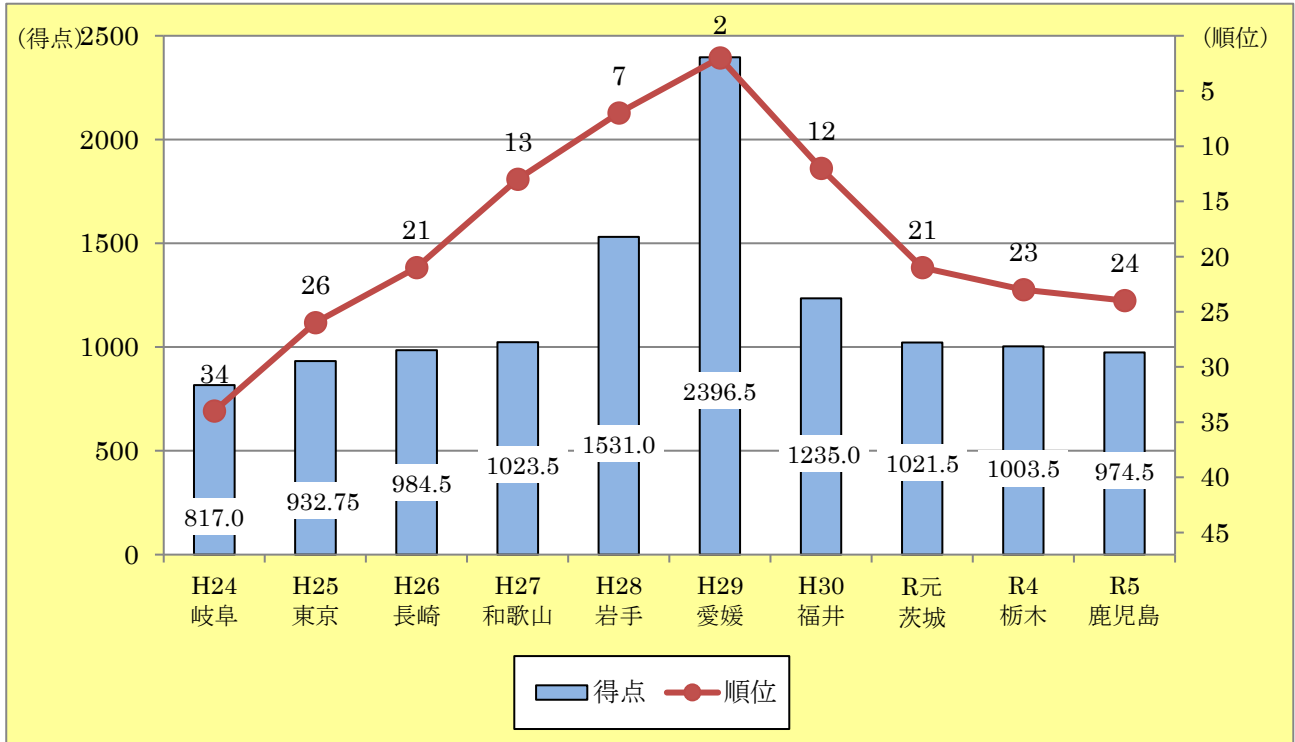


第2章 これまでの取組みの成果と課題

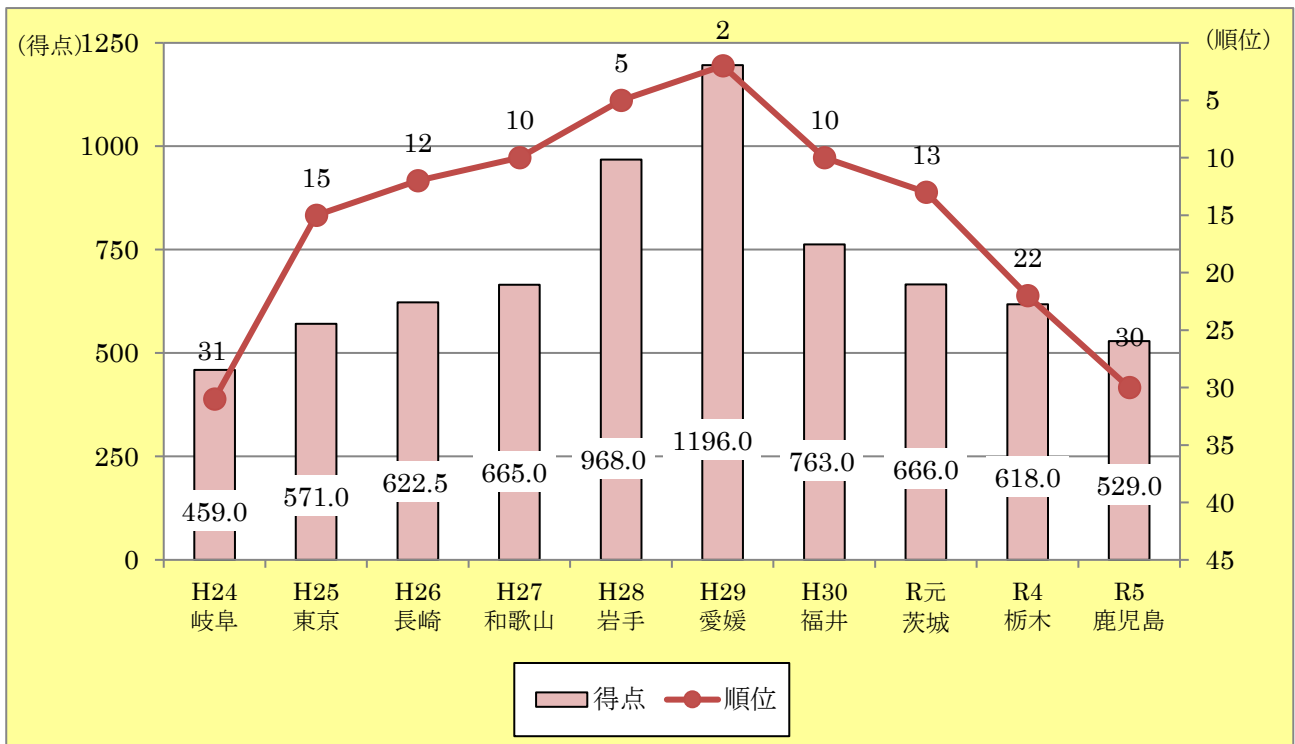
1 本県の競技力の現状

(1) 国民体育大会の成績（平成24年度以降）

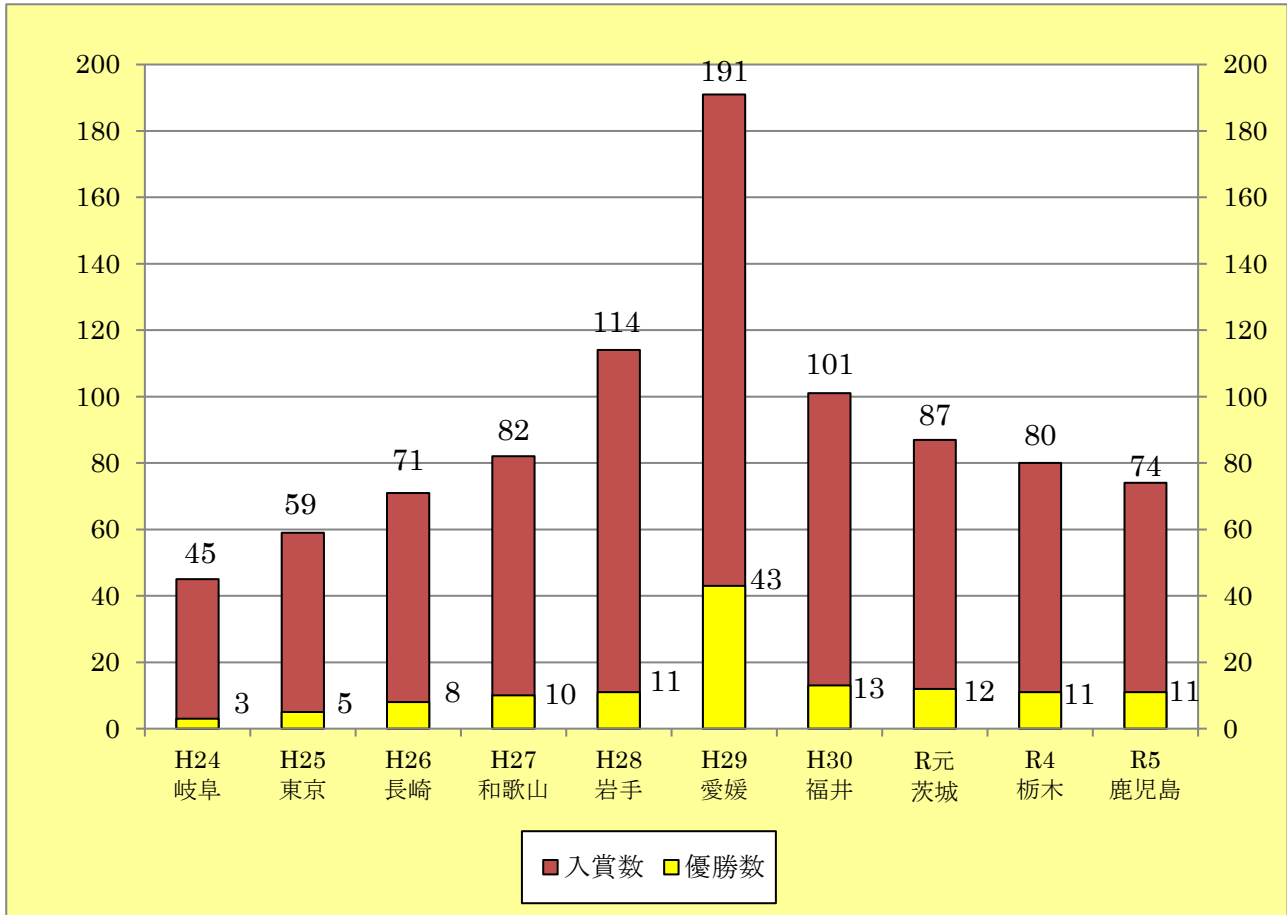
① 天皇杯（男女総合成績）、皇后杯（女子総合成績）の獲得得点及び順位の推移
 ≪天皇杯≫



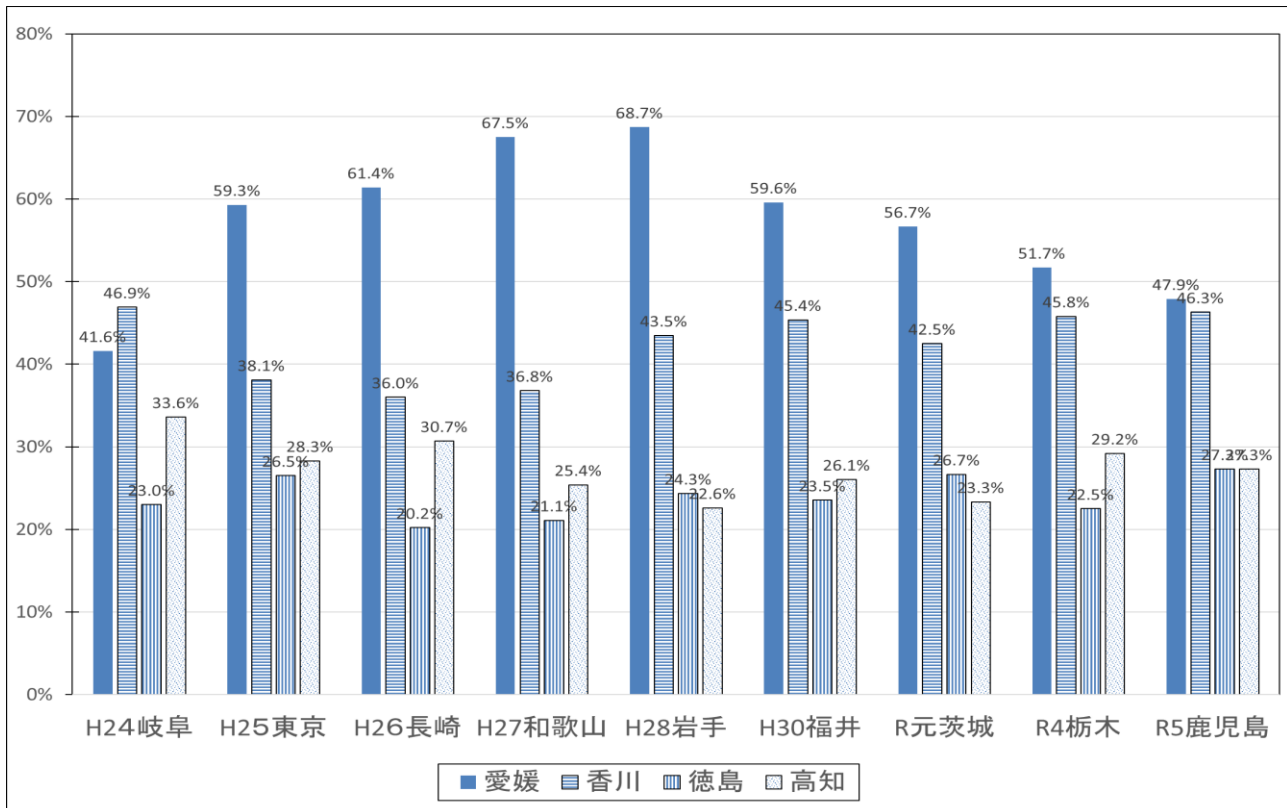
≪皇后杯≫



② 優勝数及び入賞数の推移

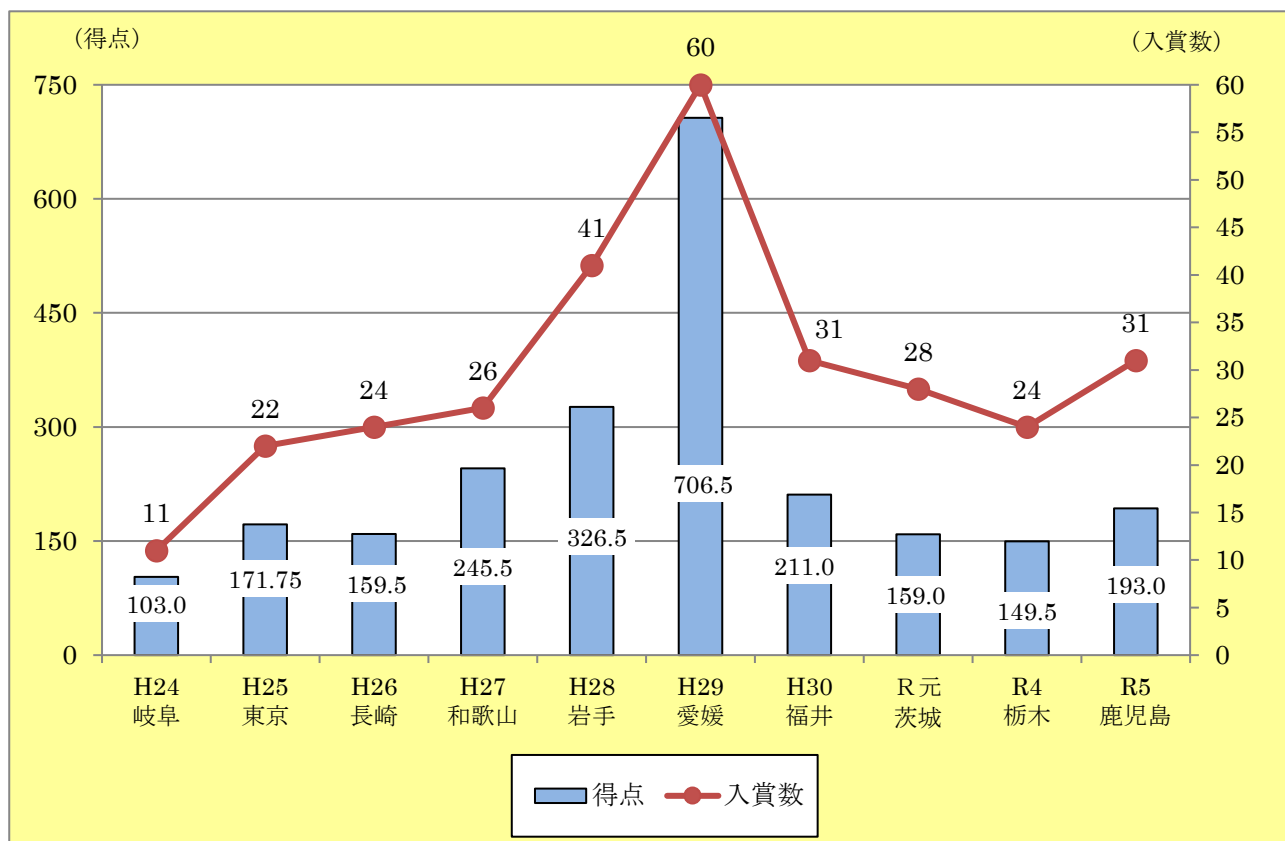


③ 四国ブロック突破率の推移

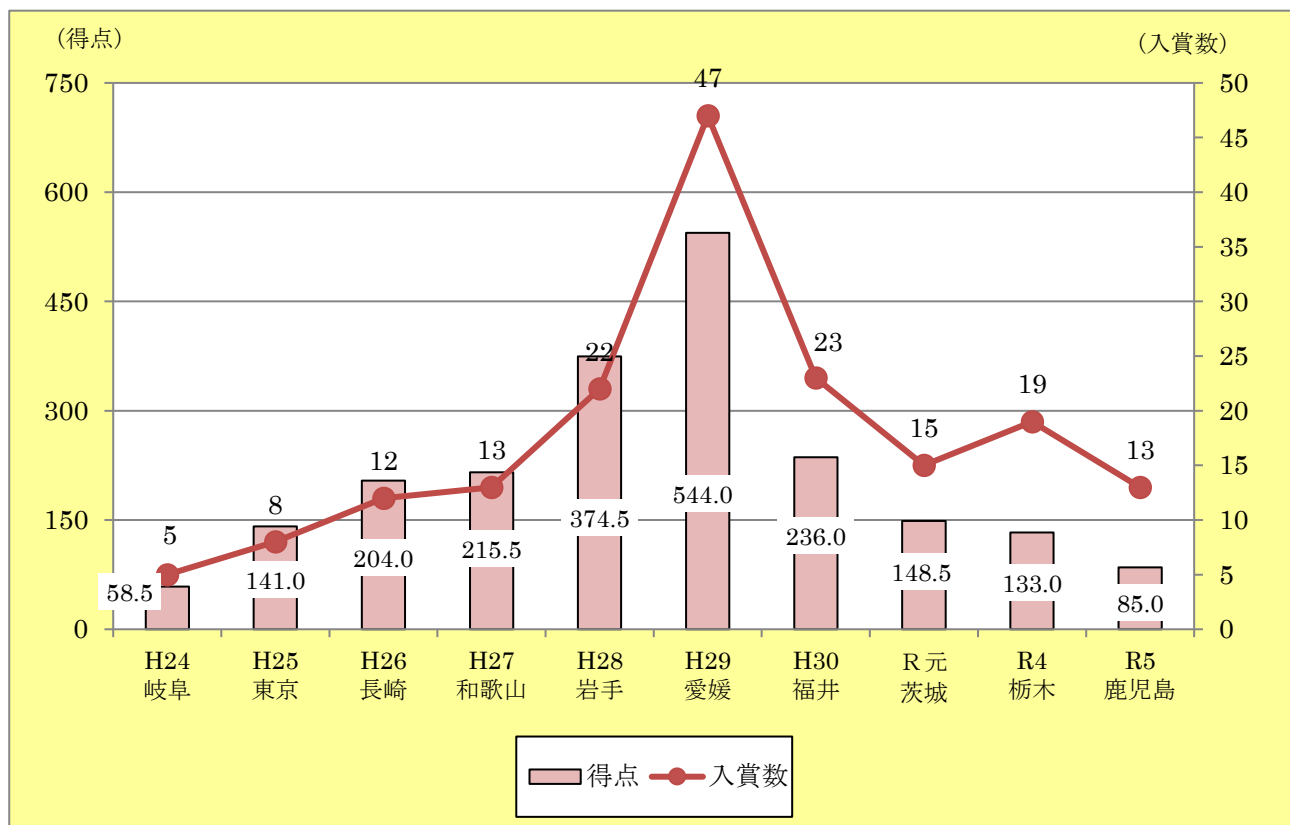


④ 種別別の獲得得点及び入賞数の推移

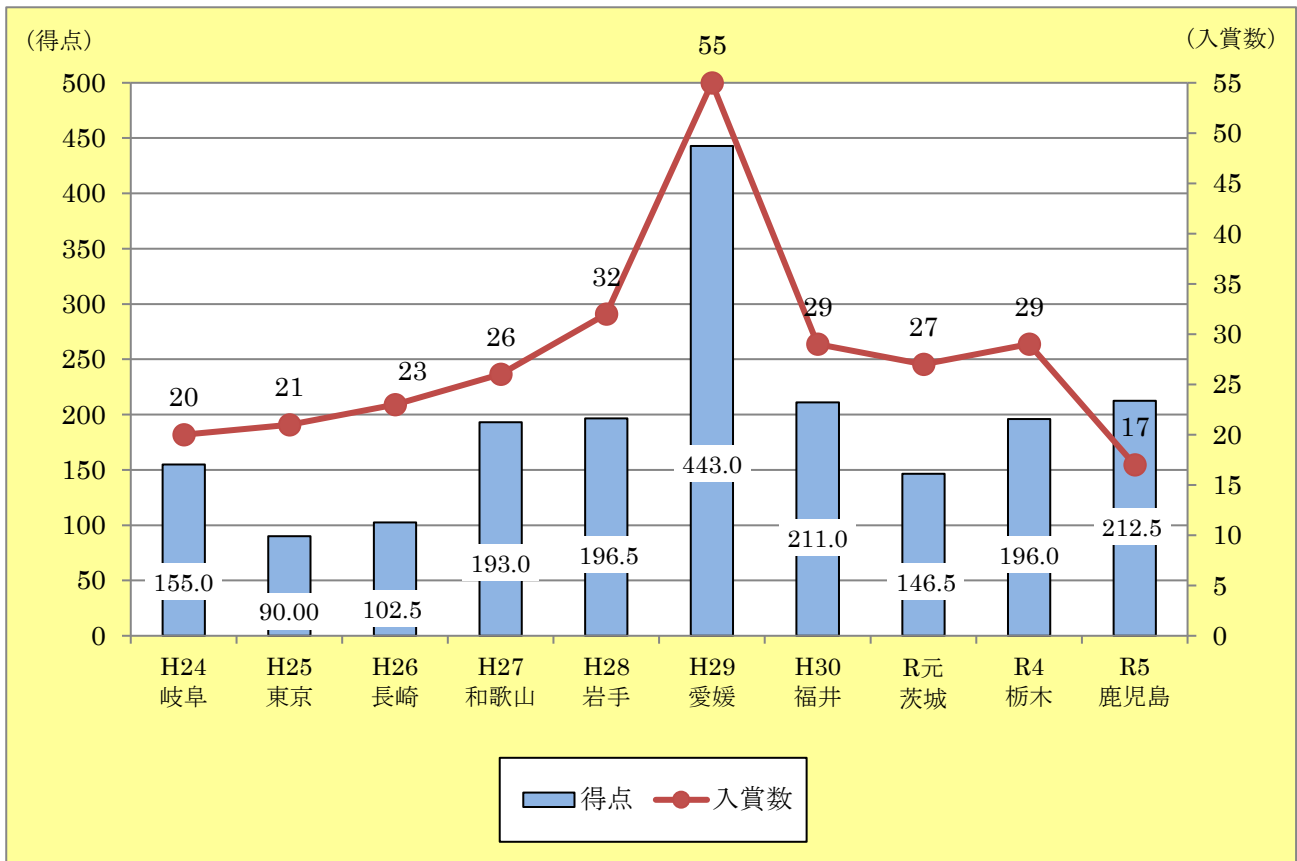
《成年男子》



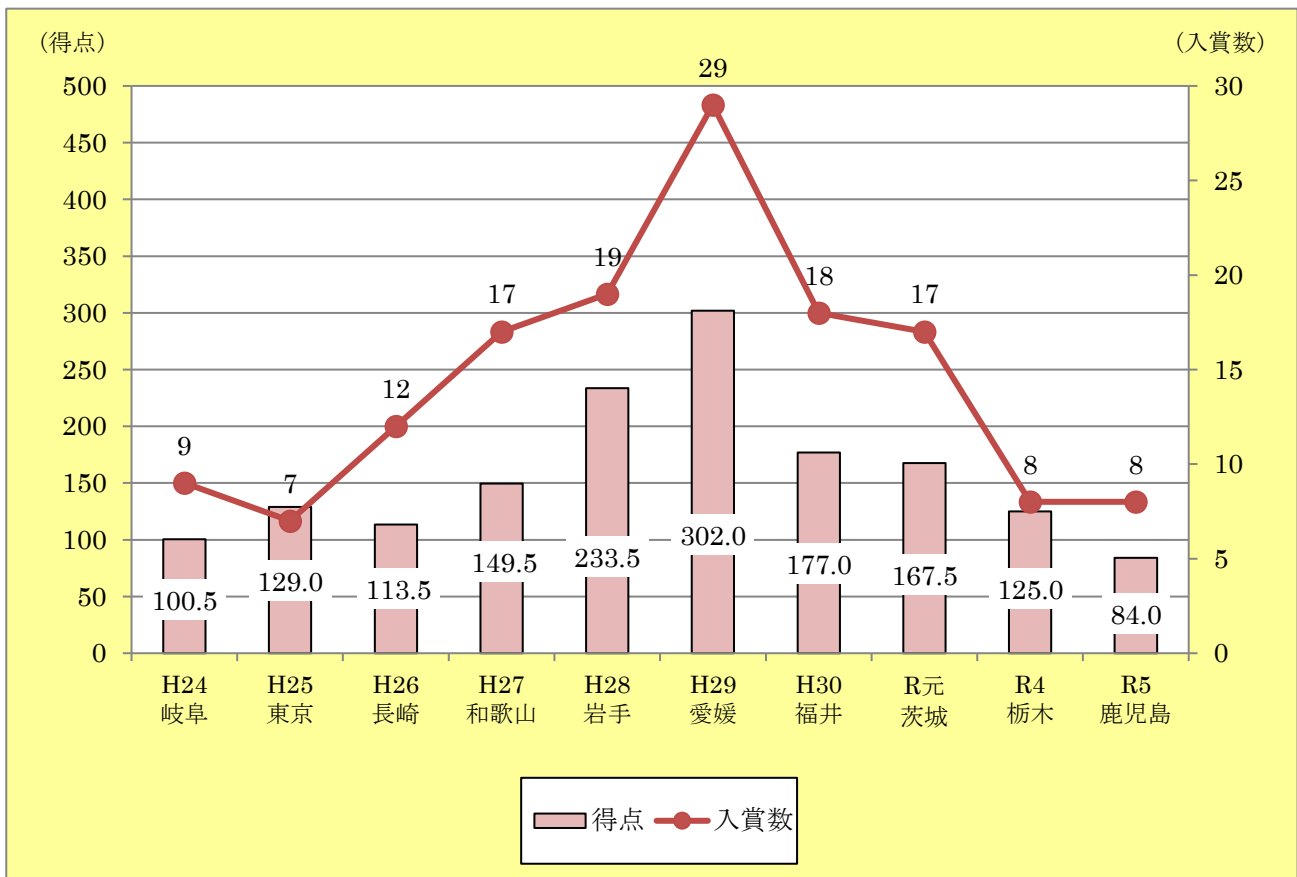
《成年女子》



《少年男子》



《少年女子》

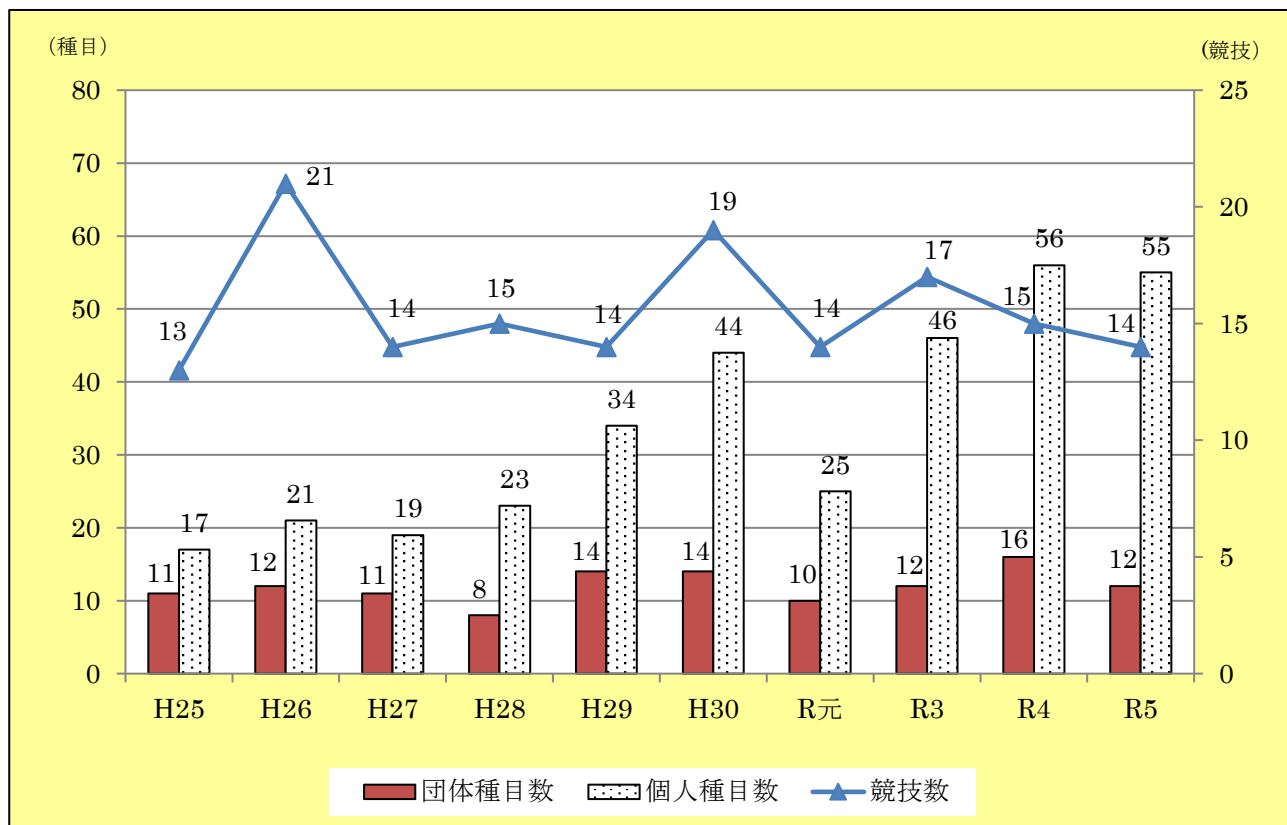


⑤ 競技別獲得得点の推移（過去10大会：平成24年度～令和5年度）

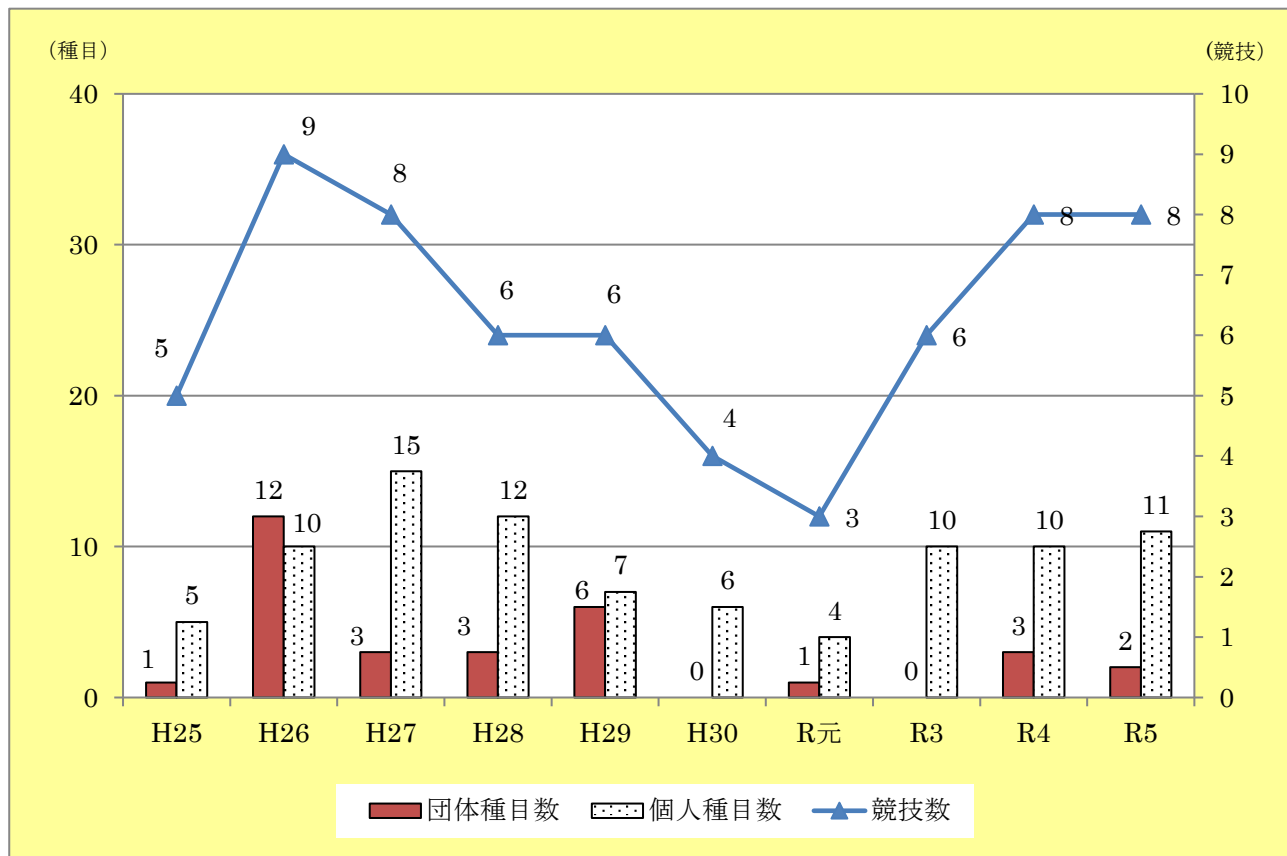
開催県		岐阜	東京	長崎	和歌山	岩手	愛媛	福井	茨城	栃木	鹿児島	10大会 平均
回数		67	68	69	70	71	72	73	74	77	特別	
開催年		H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R元	R4	R5	
1	陸上競技	21	25	33	33	44	37	36	39.5	12	19	29.95
2	水泳	17	10.5	5	8	25.5	67	10.5	16	14	16	18.95
3	サッカー	20	48	56	20	80	132	48	0	20	0	42.4
4	テニス	0	18	24	12	33	48	42	30	39	24	27
5	ローイング	126	76.5	142	97	139	181	121	44.5	114.5	114	115.55
6	ホッケー	20	32	0	20	20	60	20	0	20	20	21.2
7	ボクシング	2.5	5	10	0	24	34	27	21.5	32	20	17.6
8	バレーボール	0	17.5	0	0	0	42	34.5	4.5	0	0	9.85
9	体操	0	0	0	0	10	60	20	0	0	0	9
10	バスケットボール	40	27.5	40	75	67.5	25	52.5	12.5	12.5	0	35.25
11	レスリング	18.5	36.5	34.5	29.5	35.5	55.5	36	25	24	13.5	30.85
12	セーリング	0	12	0	8	8	61	7	9	0	0	10.5
13	ウエイトリフティング	29	12	32	43	36	79	43	30	56	65	42.5
14	ハンドボール	0	0	0	0	0	12.5	25	0	0	0	3.75
15	自転車競技	7	1	14	36	3	13	8	12	53	77	22.4
16	ソフトテニス	5	35	25	10	5	0	0	0	0	0	8
17	卓球	0	0	0	7.5	0	16.5	0	7.5	16.5	7.5	5.55
18	軟式野球	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
19	相撲	0	0	0	12.5	53	30.5	27.5	0	0	40	16.35
20	馬術	0	0.25	6	8.5	6	51	21	21	2	9	12.48
21	フェンシング	0	18	12	18	21	33	3	21	3	9	13.8
22	柔道	27.5	20	20	0	46	65	25	0	0	12.5	21.6
23	ソフトボール	44	56	20	128	88	180	20	64	40	60	70
24	バドミントン	0	0	0	15	0	15	7.5	7.5	7.5	0	5.25
25	弓道	0	21	21	42	96	69	27	90	48	9	42.3
26	ライフル射撃	0	16	0	6	10	17	4	5	7	8	7.3
27	剣道	0	0	35	86	62.5	144	20	20	7.5	0	37.5
28	ラグビーフットボール	12	0	0	20	47.5	42.5	0	7.5	0	0	12.95
29	山岳・スノーックライミング	0	0	0	0	12	33	30	12	0	12	9.9
30	カーヌー	0	0	3	11	25	66	44	46	44	14	25.3
31	アーチェリー	0	3	3	18	30	15	12	24	0	0	10.5
32	空手道	12.5	0	0	2.5	5	102	7.5	2.5	0	5	13.7
33	銃剣道	0	0	0	0	—	24	0	—	0	15	7.5
34	クレー射撃	0	18	0	0	12	0	0	6	—	—	4.5
35	なぎなた	15	3	18	6	51	93	27	15	18	0	24.6
36	ボウリング	0	20	26	31	9	59	12	12	0	0	16.9
37	ゴルフ	0	0	0	0	10.5	0	0	0	0	0	1.05
38	スキー	0	1	0	0	0	2	0	0	0	0	0.3
39	スケート	0	0	5	0	16	31	13	10	7	5	8.7
40	アイスホッケー	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
41	トライアスロン	—	—	—	—	0	—	4	6	6	0	3.2

(2) 全国高校総体、全国中学総体の成績（平成 25 年度以降）

① 全国高等学校総合体育大会の入賞数の推移



② 全国中学校体育大会の入賞数の推移

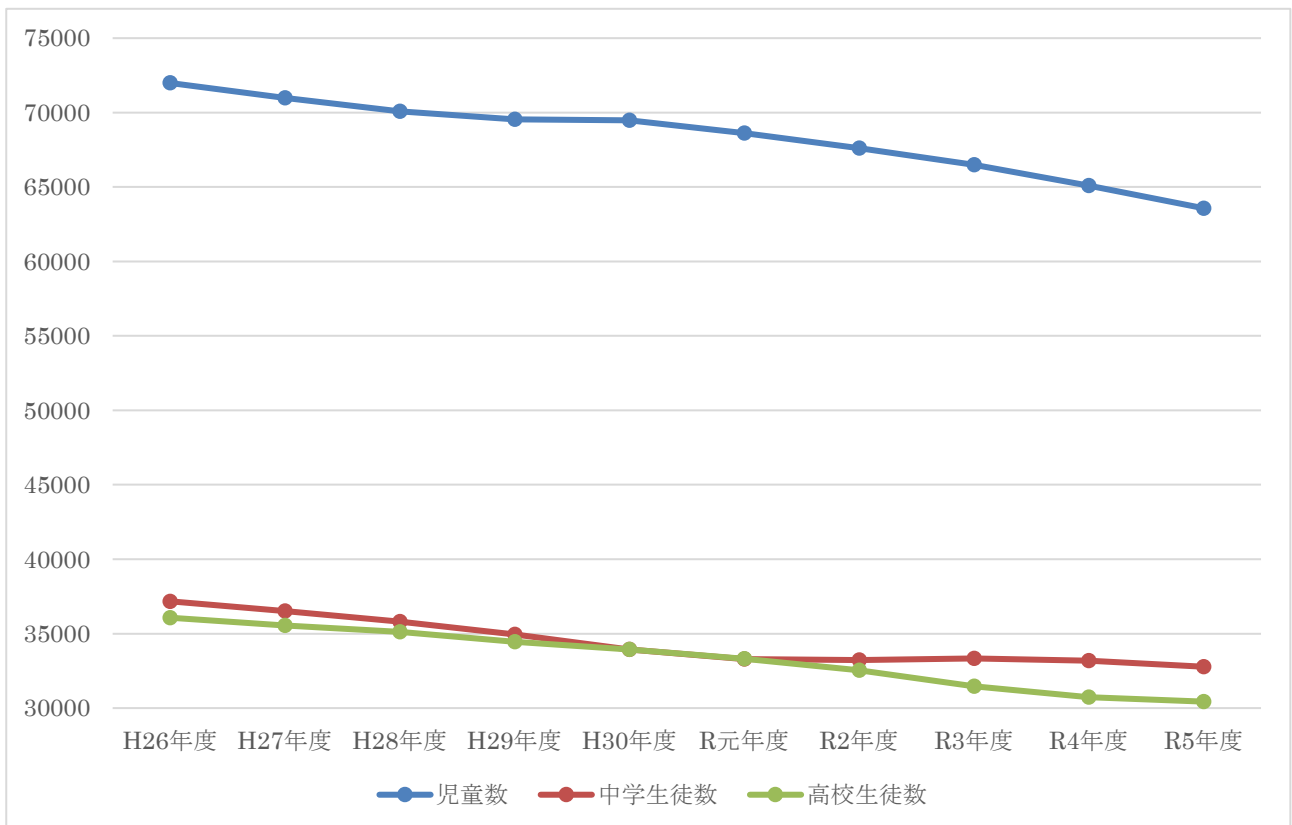


(3) 本県ゆかりのオリンピック出場者

年	開催地	人数	出場者
1984	ロサンゼルス	1	真鍋和人（重量挙げ）
1988	ソウル	3	真鍋和人（重量挙げ）、大塚裕子（新体操）、小野誠治（卓球）
1992	バルセロナ	3	真木 和（陸上）、渡邊高博（陸上）、西山一字（野球）
1996	アトランタ	4	武田大作（ボート）、佐伯美香（バレーボール）、真木 和（陸上）、森岡 茂（サッカー）
2000	シドニー	5	武田大作（ボート）、佐伯美香（ビーチバレーボール）、清家ちえ（ビーチバレーボール） 竹葉多恵子（アーチェリー）、沖原佳典（野球）
2004	アテネ	9	土佐礼子（マラソン）、村上幸史（陸上）、向井裕紀弘（陸上）、黒河貴矢（サッカー） 徳野涼子（ビーチバレーボール）、楠原千秋（ビーチバレーボール）、武田大作（ボート）、 松本慎吾（レスリング）、竹葉多恵子（アーチェリー）
2008	北京	7	村上幸史（陸上）、土佐礼子（マラソン）、長友佑都（サッカー）、武田大作（ボート） 佐伯美香（ビーチバレーボール）、楠原千秋（ビーチバレーボール）、松本慎吾（レスリング）
2010	バンクーバー	1	青野 令（スノーボード）
2012	ロンドン	3	村上幸史（陸上）、武田大作（ボート）、中矢 力（柔道）
2014	ソチ	1	青野 令（スノーボード）
2016	リオデジャネイロ	2	近藤 楓（バスケットボール）、高見澤安珠（陸上）
2018	平昌	2	郷亜里砂（スピードスケート）、片山來夢（スノーボード）
2021	東京	3	山中柚乃（陸上）、宮崎早織（バスケットボール）、松山英樹（ゴルフ）
2022	北京	1	郷亜里砂（スピードスケート）

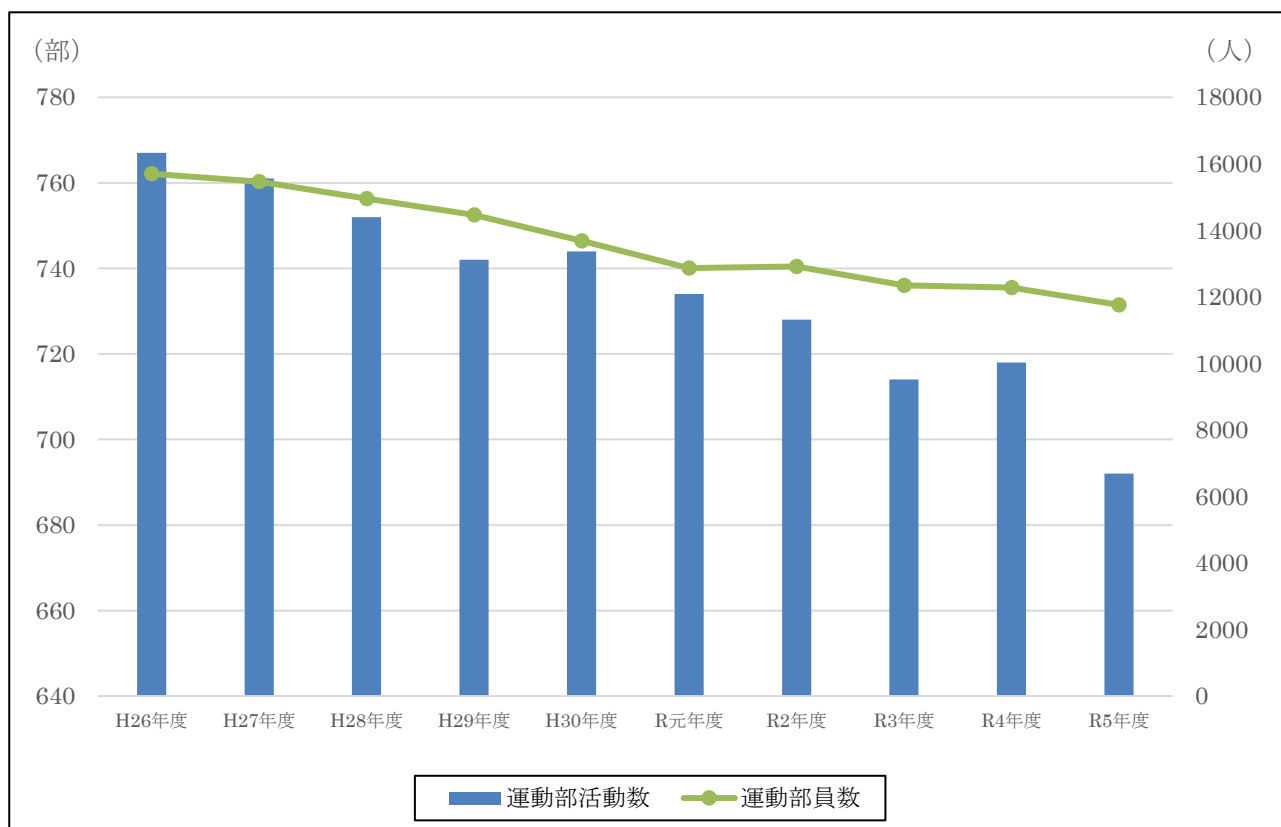
2 本県のスポーツを取り巻く環境

(1) 児童数・生徒数の推移

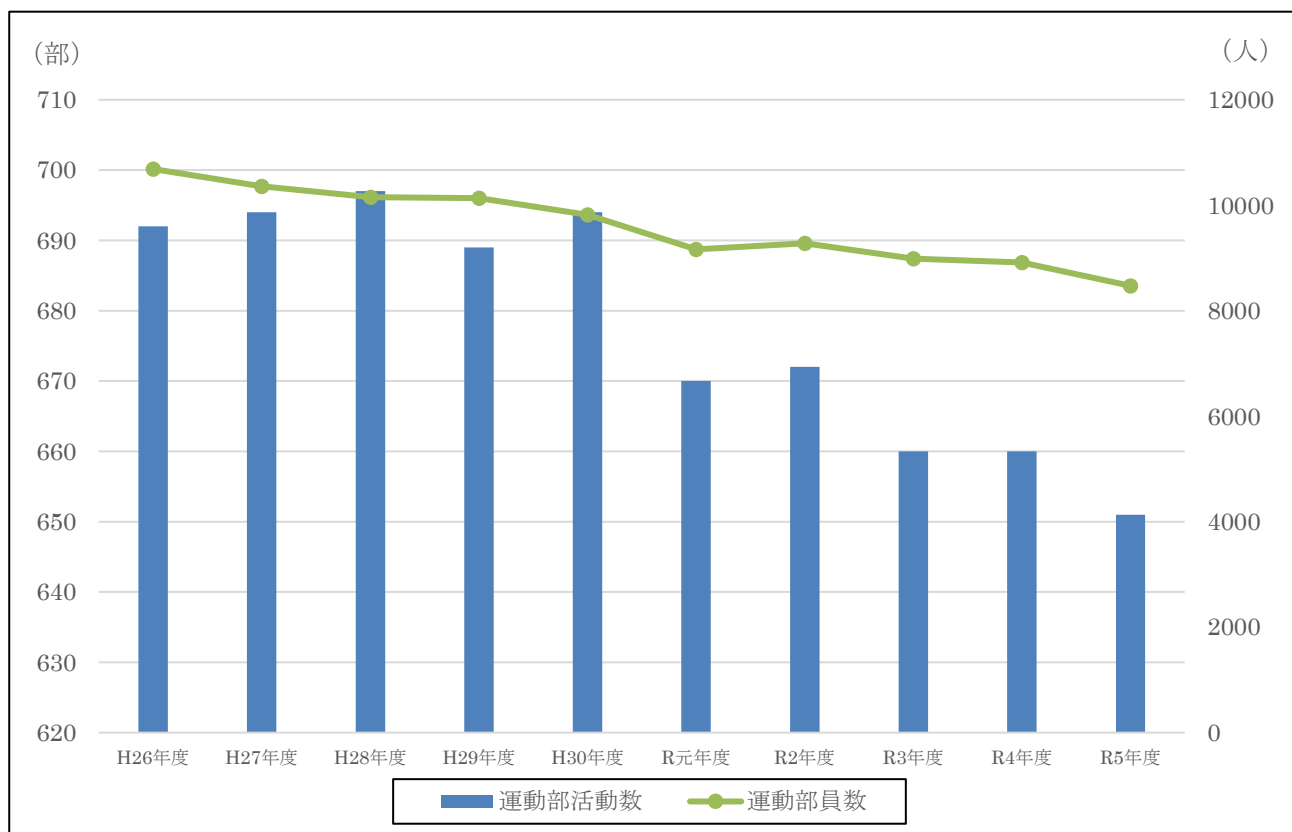


(2) 中学校・高校における運動部設置数と運動部員数

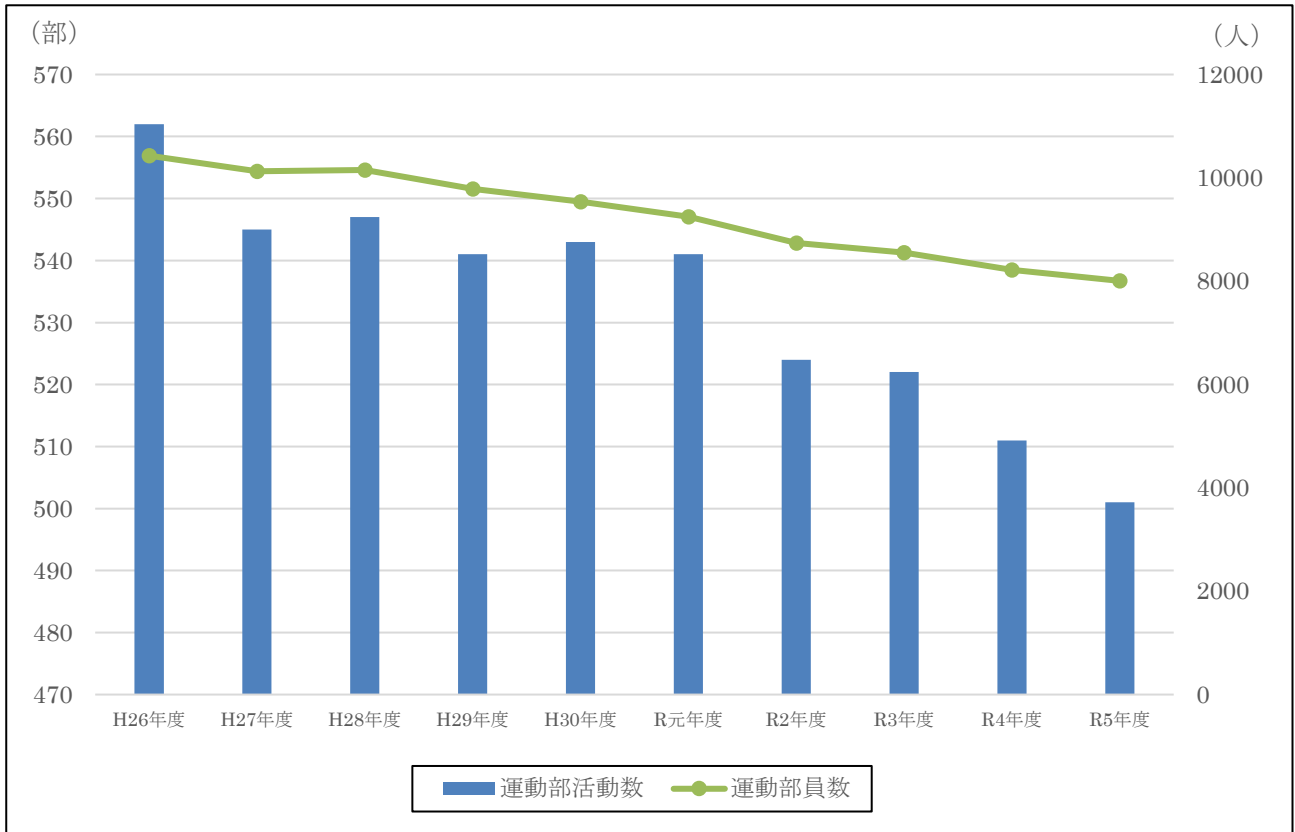
《中学校男子》



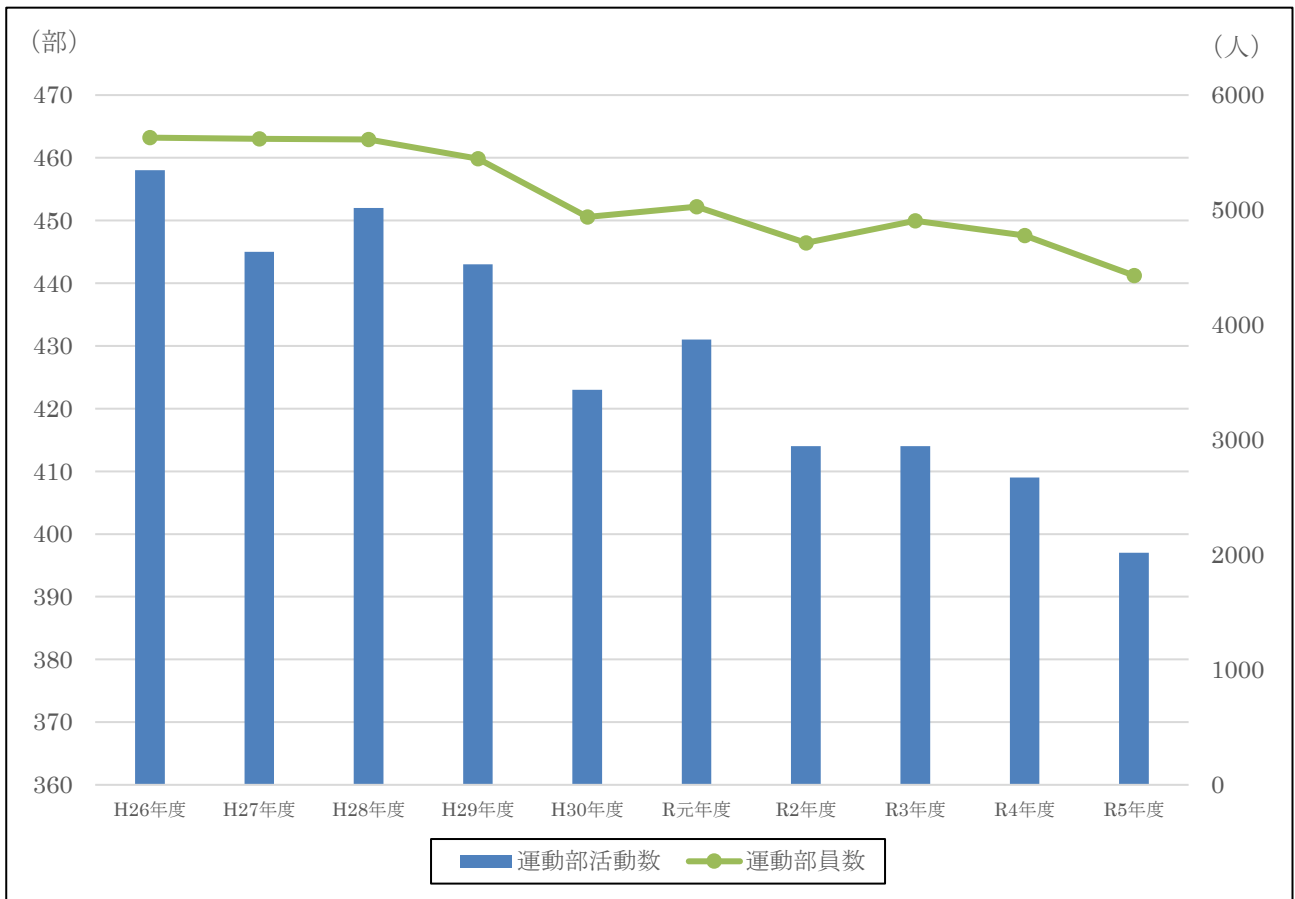
《中学校女子》



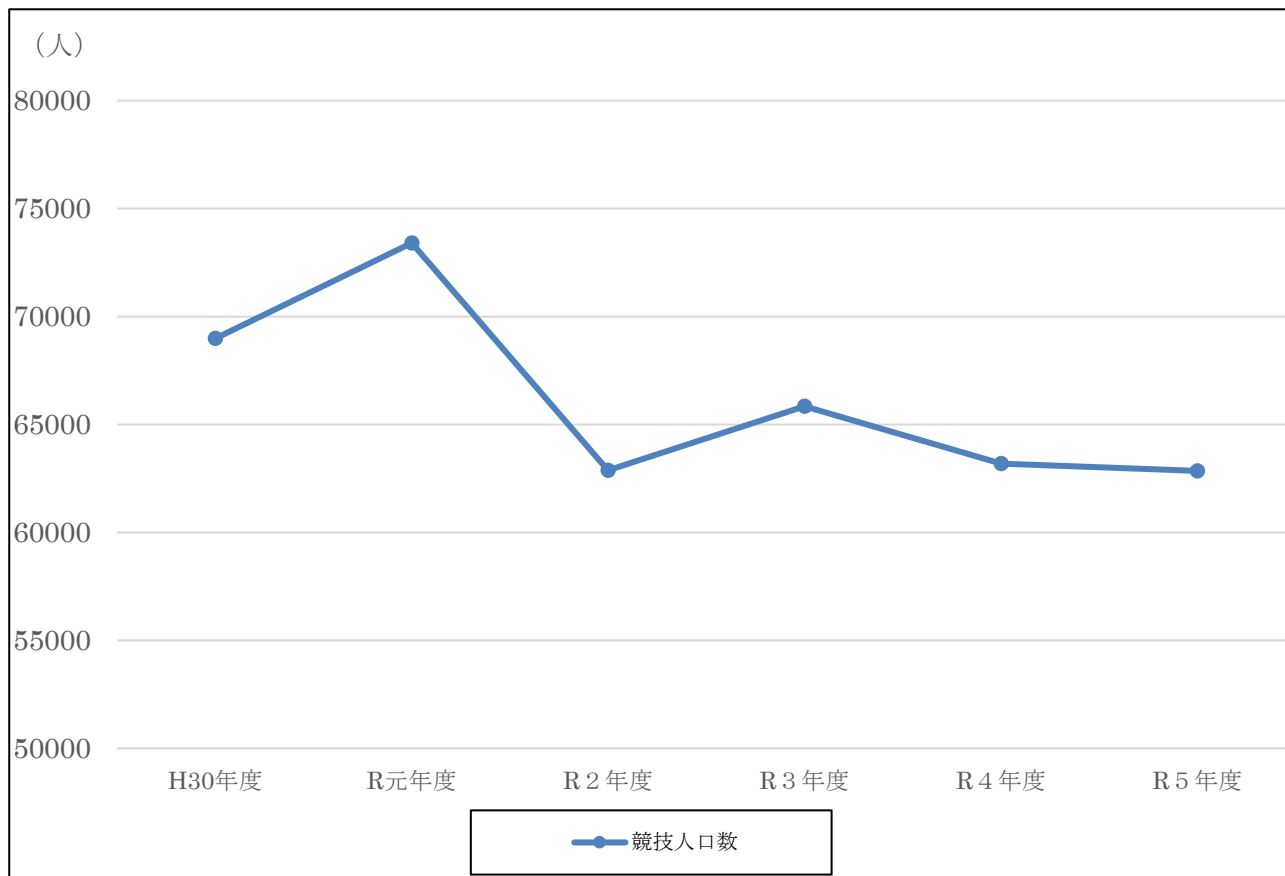
《高校男子》



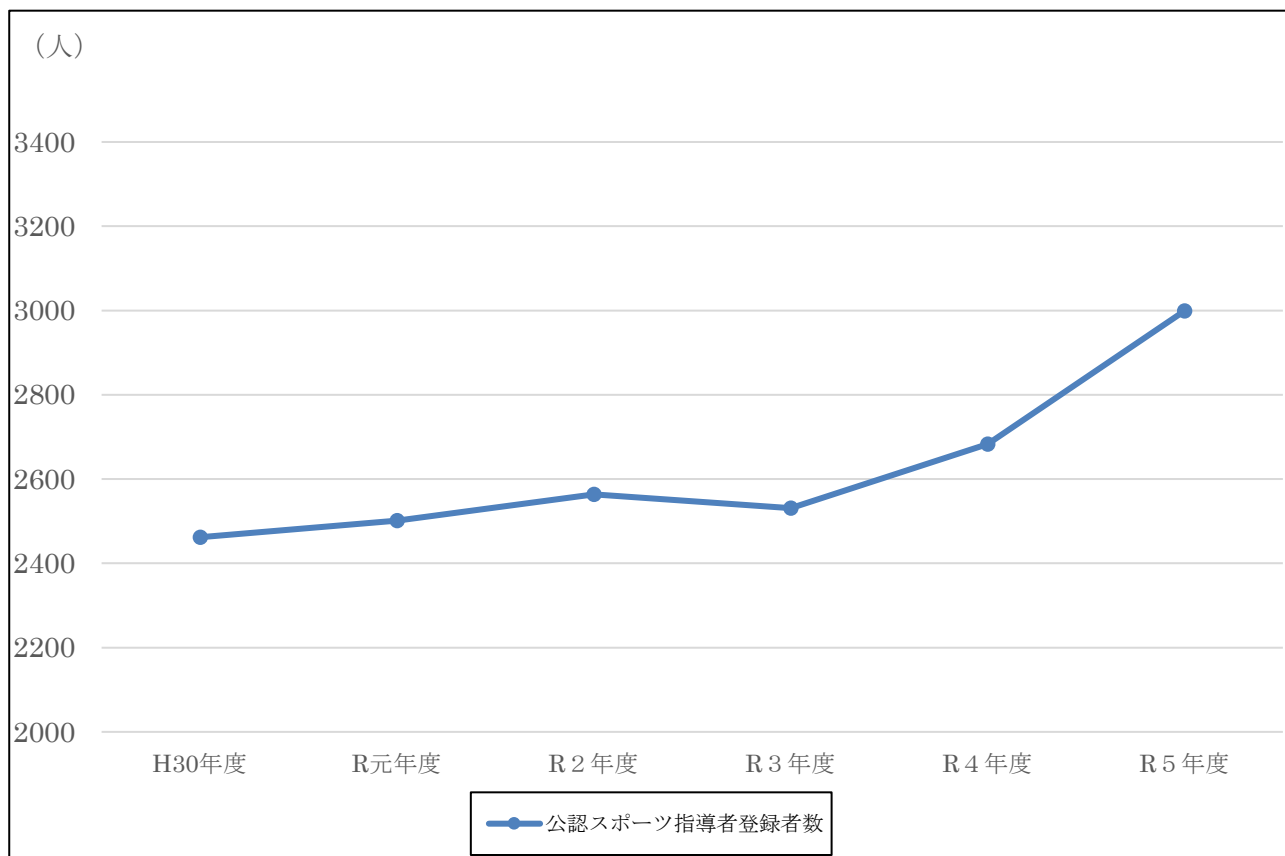
《高校女子》



(3) 競技人口数の推移



(4) 公認スポーツ指導者登録者数



3 現状と課題

【参考：計画期間（R1～5）に実施した競技力向上に係る事業】

施策	実施事業
1 競技水準の維持・向上	<ul style="list-style-type: none"> ・競技力向上対策事業 ・えひめトップグレード強化拠点校事業 ・トップアスリート活用事業 ・社会人・ジュニアクラブチームパワーアップ事業
2 指導者の養成・資質向上	<ul style="list-style-type: none"> ・トップアスリート活用事業 ・指導者レベルアップ事業
3 ジュニアアスリートの発掘・育成・強化	<ul style="list-style-type: none"> ・ネクストエイジ育成強化事業 ・えひめ愛顔のジュニアアスリート発掘事業 ・社会人・ジュニアクラブチームパワーアップ事業
4 スポーツ医・科学の活用	<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツ医科学指導者派遣等事業 ※県スポーツ協会実施事業（県補助事業） ・「えひめハイパフォーマンス測定室」の整備・運営

(1) 競技水準の維持・向上

- ① 国体順位は20位台前半と一定の成果を収めていますが、四国ブロック大会の突破率は年々下降しており、10位台達成には、より戦略的な支援及び新たな得点競技・種目の創出に向けた取組みが必要です。
- ② 東京2020オリンピックには3名の本県関係選手が出場しましたが、ロス2028大会においても、より多くの選手を輩出するため、継続的な支援が必要です。
- ③ えひめ国体から6年経過したことに加え、コロナ禍により、競技人口が大幅に減少していることから、特に、成年選手の有望選手確保及び競技継続や世代交代のサポートが必要です。
- ④ 成年選手における練習環境の受け皿を確保し、競技力の向上や競技継続を促進するため、社会人クラブチームへの継続的な支援が必要です。
- ⑤ 競技団体から、練習場所・時間の確保、経年劣化に伴う競技用具の整備など、練習環境の充実に関する要望が毎年上がっていることから、今後もニーズに応じた継続的な支援が必要です。
- ⑥ 急速に進む少子化を背景にジュニア世代の競技人口が大幅に減少していることから、競技スポーツの魅力や楽しさを伝え、裾野拡大に繋げる必要があります。

(2) 指導者の養成・資質向上

- ① えひめ国体に出場した選手が指導者になるなど、強化スタッフの主力となり始めていることから、こうした若手指導者の更なる資質向上に向けた講習会の開催が必要です。
- ② スポーツ分野へのデジタル技術の活用等、指導技術の進歩が著しい状況にあることから、競技専属アドバイザーコーチやトップコーチ、スポーツ専門員など、最新の指導実践力を有した人材を効果的に活用するための継続的な支援が必要です。
- ③ ジュニア世代の成長には、トップレベルの指導者の影響力が大きいことから、オリンピック等を招へいし、指導者の更なるレベルアップを図ることが必要です。
- ④ 専門的資格を有する指導者が不足していることから、特にジュニア世代を対象とした指導者の確保や新たな掘り起こし、有資格者の確保などが必要で。
- ⑤ スポーツ指導者のパワハラ・セクハラ事案が年々増加傾向にあることから、ハラスメント防止や指導者モラルを普及する研修会等の開催が必要です。

(3) ジュニアアスリートの発掘・育成・強化

- ① 少子化の影響等により、子どものスポーツ人口が減少している現状を踏まえ、小・中学生の競技人口拡大に向けた支援が必要です。
- ② 「えひめ愛顔のジュニアアスリート発掘事業」は事業開始9年目となり、国際大会への出場者が着実に増加していることから、2028 ロスオリンピックにおいて、初のオリンピック輩出に向けて、修了生への競技継続及び競技活動への支援が必要です。
- ③ 将来、オリンピック等で活躍するトップアスリートを輩出するためには、ジュニア期から海外遠征や海外選手等との交流を経験し、国際感覚を養うことが必要です。
- ④ 各種全国大会における団体競技の入賞数が減少していることから、有望選手が高校強化拠点校を中心に県内有力校で競技活動を継続するためのサポートが必要です。
- ⑤ 学校運動部活動の地域移行に伴い、学校等の教育関連機関との更なる連携及び地域ジュニアクラブの練習環境整備に向けた支援が必要です。
- ⑥ 有望選手の県外流出が増加していることから、各地域における小・中・高の連携強化及び一貫指導体制の構築を図り、地元で有望選手を育む環境づくりが必要です。

(4) スポーツ医・科学の活用

- ① 選手が各種大会等で高いパフォーマンスを発揮するために、医・科学を活用したサポート体制の重要性が益々高まっていることから、競技団体が実施する強化活動に、医・科学の専門家による継続的な支援が必要です。
- ② トップレベルのスポーツ界では、ゲーム分析、動作分析、映像技術、情報技術の導入が進展していることから、今後は、こうしたスポーツ科学・情報分野から、競技力向上のための課題解決をサポートすることが必要です。

- ③ 高校女子の運動部員数が中学校時から半減するなど、女子選手の競技継続が課題であることから、思春期における適切なトレーニングなど、女性アスリートを取り巻くスポーツ環境のきめ細かなサポートが必要です。
- ④ 令和2年度に開設した「えひめハイパフォーマンス測定室」で行うアスリートチェック（体力測定）が、新型コロナの影響により、実施に制限が生じたため、今後は実施回数の増加及び測定データの効果的な活用に向けた研究が必要です。

4 今後の取組み方針（総括）

これまでの計画期間の5年間（令和元年度～5年度）には、新型コロナの影響により、国体が2大会中止及び延期となるなど、強化活動に制限があるなか、可能な限りの競技力向上対策を推進してきましたが、目標の国体10位台の達成には至らなかったことをはじめ、成果指標としていた各項目の多くが下回る結果となりました。

一方、事業開始から9年目を迎えた「えひめ愛顔のジュニアアスリート発掘事業」においては、選ばれた子どもたちの全国大会及び国際大会への出場・入賞者数が年々上昇するなど、着実に成果が現れており、最大の目標としているオリンピック輩出を意識できる状況になるなど、今後に期待が持てる要素も顕在化しています。

今後、えひめ国体に向けて高めた競技力を維持・継承し、全国に誇る「スポーツ立県えひめ」を実現するためには、これまでの取組みを検証・分析し、現状を的確に把握した上で課題に対する解決策を見出し、今後の具体的な取組みへと繋げていく必要があります。

そこで、本県の課題を『第2期愛媛県スポーツ推進計画（令和5年3月策定）』の「3 ジュニアから成年まで切れ目のない競技力向上対策の推進」で挙げている競技力向上に関わる4つの柱

- (1) 「競技水準の維持・向上」
- (2) 「指導者の養成・資質向上」
- (3) 「ジュニアアスリートの発掘・育成・強化」
- (4) 「スポーツ医・科学の活用」

の観点で整理し、具体的な取組みを進めていくこととします。

今回の基本計画において掲げる、

- ① 国民スポーツ大会における天皇杯順位10位台
- ② えひめ愛顔のジュニアアスリート発掘事業から初のオリンピック輩出
(2028 ロスオリンピック)

という目標は、極めて高いハードルであり、達成することは並大抵ではありませんが、継続した取組みこそが、将来にわたって高い競技力を維持していくための重要な時期であると捉え、県内スポーツ関係者が一丸となって、高い目標に向けて果敢にチャレンジします。